

当 局 説 明

【第7回北陸地域連携プラットフォーム 平成27年6月9日(火)】

項 目：北陸3県の転出超過数ほか

説明者：財務省北陸財務局長 竹田 伸一

財務局長の竹田でございます。

本日は大変ありがとうございます。昨年7月の事務年度開始以降、第1回の打ち合わせ会も入れますと6回開かせていただきました。皆様方には精力的にご出席いただき、また活発なご意見をいただき、大変ありがとうございます。改めて御礼を申し上げます。

当局でも、人口減少・高齢社会の到来に対する問題につきましては、色々な点で、研究或いは情報発信をしていく必要があるのではないかとということで、昨年7月以降、様々な課題について取り組んでまいりました。本日はその一端をご紹介させていただきたいと思っております。

資料1ページに、北陸3県ともに転出超過が続いているという右横のグラフがございます。人口減少問題は、北陸でも続いております。北陸3県の転出超過数は、御覧のとおり、石川、富山、福井ともに転出をしているというグラフでございます。まさに我々は、直ちにいろんな行動を起こしていかないと、こういう状況は中々、止まらないのではないかと考えております。

資料2ページは、どの辺にどう移動しているのかということを担当で調べたものでございます。北陸3県の人口移動の状況は、平成26年、北陸全体で3,900人の転出超過となっており、東京圏が非常に多いという状況であります。それは北陸3県とも同じであり、石川県につきましても東京圏への転出が多く、マイナスになっております。

資料3ページは、今度は石川県を分解したものでございます。どこからどこへ流れているかということでございますが、能登地域から人口が多く流れていることが御覧いただけると思いますが、基本的には金沢市がある程度受け皿になっており、金沢市の周辺地域でも受け皿になっております。ただ、金沢市が受け皿の中心になっているといっても、資料2ページに戻っていただきますと、石川県でマイナスになっているということは、完全にその段階では止めきれていないということになるかと思っております。まして北陸全体では、資料4ページのとおり、富山県、福井県ともこういう形で流出しておりますので、北陸3県全体ではやはり転出超過の状態ということになります。

こうしたことを背景に、労働力の確保や企業における人手不足について、しっかりとした対応が必要なのではないかとという視点、発想のもとに、いろんな点を、この後、ご紹介させていただきたいと思っております。

最近、経済産業省がシステムをつくったものですが、少しだけ紹介をさせていただきたいと思っております。

次の資料5ページは、北陸地域は、どの世代でも、都市部より暮らしやすいという結果でございます。これは、地域の暮らしやすさの指標を貨幣価値に換算しているものであります。御覧いただきますように、北陸地域、富山や福井や金沢において、都市部の名古屋、東京、大阪に比べて貨幣価値としても随分と高い、2、3割、むしろ貨幣価値ベースに直すと、暮らしやすさがどの世代においても都市部より暮らしやすいということを数字にしております。

それとあわせて見ていただきたいのは、資料8ページ、9ページです。東京23区と比べた金沢市の生活コストを試算したものです。これも経済産業省がつくったシステムを使って出しておりますけれども、3割ぐらい、練馬区と金沢市を比べてみますと、金沢市のほうがよりコストが低い。これは住宅を前提にしております、こちらの地域では多分100㎡の家はおそらくあまりないのではないかと。もっとはるかに広いのではないかとはい思います。ただ、私は東京に家がありますけれども、これ以上のものを買うことはほとんど不可能で、東京ではこれぐらいの広さということで試算をしております。そこだと3割ぐらい。従って、生活コストは2、3割安く、暮らしやすさの貨幣価値が高いという点、こうした点を客観的に示して、是非、先程の人口移動の現状の改善に資していけるよう、当局としても色々な点で情報発信に努めていきたいと思っております。

以後の点につきましては、我々一人一人、当局も含め、何か行動を起こしていくような時期ではないかという視点で、情報発信を考えております。引き続き聞いていただければと思っております。